

(3)

平成2年6月10日

千葉県浦安市の東京ディズニーランドは、昭和五十八年に開園以来入園者数の伸びは順調に進み、昨年度は年間四百七十五万人（対前年比10・2%増）という最高記録を示した。内外の観光客や修学旅行生に人気はますます上昇中で、今や東の横綱格といえよう。入園者の増加は、周辺のホテルの充実、京都・奈良・大阪からの直通バスの運行開始に加え、三月十日JR京葉線の東京駅まで全線開通が大いに寄与しており、首都圏を中心としたリピーター（再入園者）や中部・近畿地方からの入園者の伸びが顕著である。また、昨年完成了した「スマート・マウンテン」など、新規アトラクションの導入が、80%を超えるリピーターにこなすことになり、日本人の余暇の使い方を変えた。

△学校団体入園者（校数）
昭和60年度＝三九〇〇校、
昭和59年度＝三三六〇校、
昭和58年度＝二八〇校、
昭和58年12月31日
63年12月31日
平成元年度＝一四万六千人
五六万三千人
人6・0%

△日曜を100とした入園者指数
平日75、土曜108、日曜100

△人気メニュー
シーフードピザ、チキンと
ベジタブル、チキンと

△入口は柱の右奥、下は室内

宿舎・食事の高級化
枕投げもままならず
東京・広島など大都会での宿舎は、旅館からビジネスホテルへと変わってきており、設備もテラックス化し、エレベーター、エスカレーターを利用、和室・大広間から洋室ツイン・シングルルームに、大浴場から洗い場のないユニットバスになった。学習指導

要領の「旅行的行事」は「旅行・集団宿泊的行事」に変わったが、「集団宿泊的」の意義が薄れつつある。寝食を共にすること、そして師弟同行・修学旅行の意義があるのだが、宿舎の事情とはいえない。が宿舎同様の機会とすることができる。

昔100軒、今22軒
東京・本郷の宿
東大生の下宿屋から旅館に日本学生会館跡は高層ビルに



ホテルの前に並ぶ修学旅行生

ての「枕投げ」をして面白くなかったとは生徒の感想である。

食事も、ホテルでの夕食に洋食フルコースの「テーブルマナー」が増えていた。和食もさざなぎ、懷石風と高級化が進み、昼食も丼物やカレーが進み、夜食も丼物やカレーが進んでいた。

ただし、ビジネスホテルでは、一堂に会し、一斉に食事をとりして、会議室等で交代制、朝はバイキングスタイルなど、一堂に会し、一斉に食事をする。

ただ、ビジネスホテルでは、一堂に会し、一斉に食事をする。

法の改正、修学旅行の形態や見学場所に地価高騰など、諸般の社会情勢の変化に伴って転廻業が相次ぎ、現在本郷旅館協同組合観光団体部加盟の旅館は、

春・秋のシーズンへの集中化

た。

上野地区は更に甚だしく、

現代社会の荒波によってどん

ど、一堂に会し、一斉に食事を

する。

た。

転業し、一時は百軒にもなつ

くなかったとは生徒の感想である。

た東京・本郷の旅館は、消防

施設も、ホ

テルでの夕食に洋食フルコースの「テーブルマナー」が増えていた。和食もさざなぎ、懷石風と高級化が進み、昼食も丼物やカレーが進んでいた。

ただ、ビジネスホテルでは、一堂に会し、一斉に食事をする。

ただ、ビジネス

旅館は、

ま

た。

